

後鳥羽・順徳天皇大原陵

三千院の広大な敷地の横には、武士階級の勢力増大の影響に抵抗しようとしたが、戦いで敗北した鎌倉時代（1185-1333）の2人の天皇陵があります。

後鳥羽天皇は3歳で、日本の第82代天皇に即位し、1183年から1198年まで在位し、将軍によって退位を余儀なくされました。彼の息子であり第84代天皇の順徳天皇は1210年から1221年まで在位しました。

「太上法皇」としては、後鳥羽は息子の在位中も影響力を維持し、鎌倉幕府から権力を取り戻そうとして軍隊を集めました。元天皇と息子の軍隊は一連の戦いで敗北し、最終的には1221年に京都郊外の宇治での合戦に至りました。

後鳥羽天皇は、現在の日本南西部の島根県の一部である隠岐諸島に追放され、1239年3月に58歳で亡くなりました。順徳天皇は玉座を追われ、日本の新潟県沖の佐渡島に追放されました。彼は1242年10月に44歳で亡くなりました。

両元天皇は、亡くなった島で火葬されたが、遺灰は1919年、この場所で再会された。

2019年4月に退位した裕仁上皇陛下は、彼がまだ皇太子であった頃に、敬意を表すために墓を訪れました。

記念碑には、天皇の名前が刻まれた2つの石柱、伝統的な「石鳥居」、13重の石塔があります。